

企画展

めい かい 冥界へようこそ

-仏画・幽霊画などからみた死生観-

令和2年

10月1日[木] - 11月29日[日]

南相馬市博物館

〒975-0051 福島県南相馬市原町区牛来字出口194 TEL 0244-23-6421 FAX 0244-24-6933 <https://www.city.minamisoma.lg.jp>

開館時間 / 9:00~16:45(最終入館 16:00まで) 休館日 毎週月曜日 ただし、11月23日(月・祝)は開館。11月24日(火)は閉館。

観覧料 / 一般 400(350)円 高校生 200(150)円 小中学生 100(80)円 (20人以上の団体)

障がい者(手帳をご提示ください)、南相馬市と飯館村に居住・通学する小中高校生は無料。11月3日(火)文化の日は無料。



《刺繍阿弥陀三尊来迎懸幅》
福島県指定重要文化財
阿弥陀寺蔵



《柳下美人幽霊》
金性寺蔵



《六道絵 地獄(部分)》金性寺蔵



《骸骨と月図》
駒井源琦 金性寺蔵

アノ世ヲ ハヅレテ ミマセンカ?

■関連講座 市史を読む

「彼方の世界をどうみてきたか
-私たちの他界観・来世観」

11月15日[日] 13:30~15:30

講

師：岩崎真幸氏

(みちのく民俗文化研究所代表)

定

員：申込制先着25人

受付開始：10月18日(日)~

新型コロナウイルス感染防止のため、
マスクの着用などに御協力ください。
感染の拡大状況によっては、予定を
中止など変更する場合があります。



《十王像 奪衣婆像》浄園寺蔵

仏教特に浄土教では「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えれば、人が亡くなると極楽浄土から阿弥陀仏が迎えに来てくれると考え、**来迎図**を掛けて往生を祈りました。

しかし、生前に悪行を行った者は、三途の川で十王に裁かれ、地獄で責苦を受けると考えました。地獄図や十王像は盆や彼岸にお寺で

公開・絵解きが行われ、仏教の地獄極楽思想は日本人の心に大きな影響を与えてきました。

一方、死者の霊が成仏できずに現れるといわれるのが幽霊です。江戸時代には演芸や演劇などで怪談が人気となり、多くの**幽霊画**が描かれました。

死は誰にでも訪れます。死に

対して家族・親族・地域社会は**葬送習俗**という形でさまざまな対応を行い、死者の魂の救済を願ってきました。

本展では、こうした日本の伝統的な死生観や他界観を仏画・幽霊画・民俗例などから紹介します。



葬列と輿
昭和34年 小高町(現小高区)

■ あの世へ送り出す

葬列は棺を墓場に運ぶだけでなく、死者を他界へ送り出すための重要な儀礼です。葬列には棺をのせた輿こしのほか、供物や礼拝道具など旅立ちに必要なものが伴い

ました。親族や地域の人々も葬列に加わって墓地まで送り、僧侶が死者へ最後の宣告をして、迷いから仏道へ導き、他界へ送り出しました。



浄土真宗の仏間 原町区押釜 林家

■ 死者と生者の接点

葬儀や法事が終わった後も、死者と生者とは何らかのかかわりを持って暮らしています。日常生活の中でも、仏壇や遺影・墓を参り、祖先をまつことは、この世に残された人々が、あの世に行った死後の靈魂と交流を持って生きているからと言えるでしょう。